

発電機や車両用ヒーター、従来比3割超の節電

“ホット”な省エネ装置

本格販売を“スタート”

ディーゼルエンジンやガスエンジン用ヒータイングシステム（予熱装置）大手の米メーカー、ホットスタート アジアパシフィック合同会社（東京都文京区本駒込6-1-10、☎03-6902-0551、中村光臣代表）はこのほど、従来製品と比べて予熱時の消費電力量を3割以上も削減した「小型強制循環式エンジンクーラント予熱ヒーター（エンジン冷却水予熱ヒーター）」の2タイプを、アジア・太平洋地域で本格販売を始める、と発表した。

日本市場を中心にアジア・オセアニア地域での市場開拓に注力し、防災用発電装置の製造メーカーのほか、発電装置に搭載されるエンジンや発電機のメーカー向けに積極的に販売していく。

本格販売を開始する2タイプの製品は、内発協が定める「防災用自家発電装置の出力区分」でいうと、Mクラス（500kW以下）を下回る発電装置に対応可能な「CTMモデル」と、Lクラス（500kW超）を上回る発電装置に対応可能な「CSMモデル」である。

CSMモデルは、加熱電力が3～12kW、定格電圧が単相・三相仕様で120～690V（50Hz/60Hz）。発電機、建設機械、船用補機、工業用機器向け、排気量15～100リットル級のディーゼルエンジン、ガスエンジンに対応可能という。特長として、サーモスタット、ポンプ、制御装置からなる一体型とした。小型ポンプにより強制的にエンジン冷却水を循環しながら、エンジン全体を均一に予熱し、保温する。消費電力量の削減により、異常高温を回避し、ヒーターエレメントなど部品の長寿命化を実現した。

CTMモデルは、加熱電力が1～2.5kW、定格電圧が単相120V（60Hz）、単相240V（50Hz/60Hz）。



左からCSMモデル、CTMモデル。
2Lのペットボトルと比べ遜色ないサイズだ。

発電機、建設機械、船用補機、工業用機器向け、排気量20リットルまでのディーゼルエンジン、ガスエンジンに対応可能という。特長として、さまざまな小型エンジンに取り付け可能なコンパクト化を図った。また、サーモスタット、ポンプからなる一体型とした。CSMモデルと同様に、小型ポンプにより強制的にエンジン冷却水を循環しながら予熱を行う。ヒーターエレメント寿命が長く、さらに低消費電力も実現した。



中村光臣代表の手のひらに収まる
小型軽量化を実現したCTMモデル

CSMモデルは約10年前から、CTMモデルは約3年前から、米ワシントン州のホットスタート本社が、いずれも北米市場を皮切りとして、英・仏・独・伊・西を中心とする欧州市場において、先行して販売を実施してきた。同等製品の主な販売先として、GE（米）、Generac（米）、KOHLE（米）、Rolls-Royce（英）、FG Wilson（英）、SDMO（仏）、MTU（独）、Komatsu Mining（独）、Visa（伊）、HIMOINSA（西）に対して豊富な納入実績がある。今後、日本法人を営業拠点として、工場・学校・ショッピングモールに設置される防災用発電装置向け販売拡大に積極的に乗り出す。